

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年 11月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100264		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホームもえぎ野		
所在地	広島市安芸区船越南3丁目23番6号 (082) 822-8181		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100264-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切に、スタッフも生活歴を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践している。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができるように心掛けている。一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え、色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎ野が入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。地域とのつながりを大切に考え、保育園などと一緒に行事を行うなど、地域との触れ合いに努めている。また、家族会を通じて、家族と一緒に入居者様の生活を支えて行けるように日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の”理念の共有”は、独自で作成したクレドカード（事業所理念が記載）を活用し、いつも笑顔が多い事業所を目標に、管理者と職員はチームとして信頼関係を構築している。更にはシェル分析（ソフト及びハードの介護環境等、5つのファクターでチェックする）を活用しながら、身体拘束等研修を行い支援に役立てている。市町や地域との関係も、認知症サポーターとして職員と共に年2回地域に出掛け、講演や講習を行っている。利用者に対するサービスは、外泊及び外出支援が困難な昨今、職員はストレングス（本来有する力や強さ、才能）について話し合い、事業所内で出来る事、楽しむ事を実践しながら体力や精神力が低下しないように、支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔とぬくもりの中でそして家族として・・・」という法人理念をもとに、毎年ユニット目標を作り実践している。年度末には目標の評価を行うことで次年度につなげている。ユニット目標や個人目標をを3カ月に一回評価している。	事業所は理念に基づき目標を定め「笑顔と温もりある生活」を引続き実践している。両ユニットは定期的に研修を行い、職員各々がクレドカード(ビジョン・ミッション・バリュー)を咀嚼し、実践に活かす取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の行事やお祭りへは、コロナウイルスの影響で参加できていないが、地域の美容院への散髪等の外出で地域の人々との交流に努めている。Facebookに日ごろの様子を投稿して情報を発信に努めている。	地域とのつきあいは、以前のようには出来ない。近隣への外出もコロナ化の影響で困難である。しかしながら出来るだけ外出範囲を考慮し支援に努めている。事業所からの発信はFacebook等活用しながら、地域と繋がるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	包括支援センターの方々と協力して認知症アドバイザー養成講座を開催し認知症について理解してもらうように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様から助言を頂くなど、サービス向上に努めている。コロナウイルスの影響で入居者の参加は見合わせている。緊急事態宣言の為、運営推進会議が中止となり書面会議で開催した。	会議は、地域の関係者で活発な意見交換がされている。職員は議事録の内容を把握して貰いサービスの向上に役立てる様取り組んでいる。また毎回身体拘束についての報告や話し合いを行い、集合しての会議が困難な場合は、書面にて行う取り組みもある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。	日頃から市町と協力関係を築くように努力している。管理者は認知症アドバイザーとして、年に1～2回講演依頼を受けている。例えば地域の小学校にも職員と介護の支援方法等の寸劇を行い、市町といろいろな形で連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議等で、身体拘束についての研修を行い、職員全員が身体拘束をしない取り組みを実践している。	身体拘束をしないケアを正しく理解するために、介護環境のソフト（業務手順等）やハード（物理的な事）面をチェックする手法を研修で行い、スピーチロックやヒヤリハット時の対策など、安全で過ごせるサービスを行う取り組みに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議にて、虐待の防止について、研修を定期的に行っている。日々の生活の中で身体に傷などがない様に注意している。また、傷などを発見した時には、ヒヤリハットや事故報告書に記録を残し職員間で共有して原因究明や再発防止に努めている。（SHELL分析を行っている）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在入居されている方に、成年被後見人の方がおられる。ご家族の方で興味のある方がおられたら制度の説明などを行い利用してもらえるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	もえぎ野を事前に見学して頂き利用者の家族の不安や疑問を言っていただき十分な説明や理解納得を図って契約をして頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナウイルスの影響で面会中止になる事が多く家族を直接会って意見を聞く機会が減少している。そのため、月1回電話連絡を行い状況報告と意見を聞くように努めている。	新型コロナウイルス感染症が蔓延している中、家族が来所することが出来ず、利用者の様子は定期的に、電話で話したり、家族によってはSNS（LINE）でのリモートで面会するなど支援している。また要望が有れば運営に反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開き、またユニット会議などで管理者に話をするなど意見交換をしている。3か月に1回、主任が面談する機会を設けスタッフの意見を聞くようにしている。	事業所は、働き易い環境（ワークバランス）を作る為の体制づくりがある。職員からの意見は会議の場のみでは無く、個人面談等さまざまな場面で行っている。管理者と職員は信頼関係を築くよう、話し合いを重ね必要に応じて意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。行きたい研修を聞き希望に沿った研修に参加出来る様にしている。人事考課制度を導入し、職員のやる気を出せる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。職員の興味がある研修を聞き、希望に沿った研修が受けられる。自主勉強会として、介護福祉士・介護支援専門員勉強会なども行い職員を育てる体制を作っている。（研修補助制度を設けている）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度は、コロナウイルスの影響で参加できていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前から職員にご入居者の情報を話し統一した対応が出来るように努めている。また、要望等あれば耳を傾け信頼関係づくりに努めご家族様ともどもコミュニケーションを取り安心して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>利用前に事前訪問したり、事前にホームに来てもらい、説明を行うなかで、現在家族が困っている事等を聞くようにしている。入居されてからも、しっかり家族と会話をする事で関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用前に本人・家族より話を聞きアセスメントをしたうえでサービス内容を検討している。また、定期的にスタッフとも話し合いを行う事で、今必要なサービスの検討をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家族としての気持ちを持って接している。また、出来る範囲で家事を手伝っていただき暮らしを共にする者同士として役割を持っていただいている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>いつでも面会に来てもらい、家族の方と絆を大切にしてもらっている。家族会などで、一緒に行事に参加してもらい会を盛り上げてもらっている。コロナウイルスの為、面会の制限があるが、極力家族に面会できる機会を設けている。オンライン面会を取り入れている。大きな行事を行う際にはビデオレターでメッセージをもらい皆さんに見てもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。(あまり手紙や電話のやり取りはない) 知人・友人の面会も自由に来て頂くようにしている。現在コロナウイルスの影響で面会が行えていない。</p>	<p>現在は馴染みの場所や、家族・知人に会うことが出来ない事が多い。職員は事業所内での生活面を重視し支援している。また体力や精神力が低下しないよう、気配りしながら途切れない関係の支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話が出来るように職員が中に入り支援している。家事の手伝いや創作活動を一緒に手伝っていただき、入居者同士の関わりを深めることが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終わっても、相談があれば対応し、今までの関係を断ち切らない様、対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的なかかわりから、入居者個人の思いや希望を聞き、ご家族の方とも話し合い対応している。スタッフで週1回カンファレンスを行っている。	利用者一人ひとりの生活歴や、日頃の暮らし方を把握し、ひもときシートに基づいて、気付き等を共有し意向の把握に努め、出来る限り希望に近づけるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞いたり、本人との会話の中で生活歴や馴染みを聞かせてもらい把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの有するストレスについて、その都度職員同士で検討し記録することで現状の把握に努めている。スタッフで週1回のカンファレンスを開いている。		

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>スタッフや関係者の間でご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合いの場を設け介護計画を作成している。各担当がケアプランを定期的に見直しを行い情報共有を行っている。</p>	<p>家族の意見を聞きながら介護計画を立てている。職員は利用者の日々の様子を観察し、計画に添って毎日モニタリングで確認を行い、会議に於いて見直しが必要な場合は、その都度検討を行い、現状に即した支援を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>スタッフノートを活用し、スタッフ全員情報共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人やご家族様の要望に出来る限り対応したサービスやケアを行えるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の保育園の方に話を行い、(餅つき会などに参加してもらっている。)地域とのつながりを大切にしている。今年度はコロナウイルスの影響で地域活動は行えていない。今後も状況を見ながら判断していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>隔週、協力医の往診がある。電話での連絡は、24時間取れるようになっていく。かかりつけ医より指示があった場合は、総合病院など適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医は近隣のクリニックから定期的に往診がある。本人、家族の希望で利用前より馴染みのかかりつけ医に通院する人もいる。協力医は夜間対応も行っている。事業所は、職員(看護師)、協力医と共に常に安心して適切な支援につなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>もえぎ野内で看護師を確保し、日々バイタルCKなどを行い入居者の健康状態の把握に努めている。入居者の気付きや異常時などの場合は、看護師に報告し適切な対応、指示をもらう様に努めている。早期発見・早期治療に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、病院の看護師としっかり情報交換を行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。退院後も継続してかかりつけ医と連携して治療してもらえるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期についての対応を検討しているが、今現在そのような方はおられない為実施していない。</p>	<p>管理者は重度化や終末期になると家族と話し合い、職員と共に情報を共有しながら、出来る限り家族の希望に沿って、支援するよう取り組んでいる。夜間急変した場合、管理者や協力医の指示に従い、職員はチームで取り組む体制がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時、事故発生時に備えて訓練を行っている。(AED使用法、救急蘇生法など)今年ではまた研修を開催できていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えてある。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていないが、災害時における協定書を地域の町内会と結んでいる。防災訓練を予定していたが、コロナウイルスの影響で実施できていない。</p>	<p>年2回の防災訓練は行われている。新型コロナウイルスの影響があり、近隣の協力体制は困難である。また風水害が多発しており、職員はハザードマップでの位置付けを把握し、常に有事での避難経路(垂直避難)を把握しながら取り組んでいる。備蓄は法人内の協力で3日間位確保してある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人ひとりが、入居者個々の特性を理解し人格を尊重する意識を持った言葉がけが出来ている。	利用者の生活歴を把握し、誇りを傷つけないよう配慮している。普段の会話の中で、馴染みが行き過ぎない様に配慮し、接遇に於いては親しみと慣れ合いの違いを常に意識し、言葉がけなど傷つけないよう配慮し、適切な支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者によっては、希望を表したり自己決定を行ったりすることが難しい方もおられるが、思いに沿った働きかけを行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合で動いてしまうときもあるが、なるべく本人のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、身だしなみやおしゃれについて、希望があれば添うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	コミュニケーションを取りながら、入居者と職員と一緒に食事を取り出来る人に調理補助や食器お盆拭きを手伝ってもらっている。	食事環境に於いては、好きなテーブルで気の合う人と共に食事を楽しんでいる。年に数回、回転ずし等外食や花見の時期は弁当を手配して楽しんでいたが、この約2年間は庭でバーベキューや焼き芋、夏はソーメン流しをして食事を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量は、2週に1回体重測定をおこない、管理している。盛り付けも、本人の状態を見ながら盛り付けている。(入居者によってご飯の量を決めている。)水分補給は定期的に行い、水分量が確保できるように努めている。(水分量も決めている。)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行ってもらっている。また、歯科医・歯科衛生士に訪問してもらい、専門的な診療や口腔ケアを定期的に行ってもらい、口腔内の清潔保持に努めている。年に一回歯科医師に来てもらい勉強会を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1日を通し、トイレに行った時間、回数など記録し、把握している。定期的には声かけを行い、トイレで排泄ができるようにしている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し状態を確認しながら、自立に向けた排泄支援を行っている。研修は業者に依頼し事業所に来て貰い、拘縮している利用者の、オムツの当て方などの勉強会を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時、食後などは便意の有無にかかわらず、トイレの声かけを行う。食物繊維のあるものを、食事に取り入れ、便秘時には、ドクターに相談して排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に一日置きに入浴してもらっているが、体調、安全を考慮した上で、その人希望のタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらえるように努めている。	入浴は、利用者一人ひとりの状態等を考慮し決めている。概ね週2～3回の入浴で、冬場は風邪を引かないよう湯舟の蒸気をしっかり立て、心地よく入浴が楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	居室にはベッド、フロアにはソ ファなど休息出来る場所を作り、 好きな時にゆっくり休んでもら えるようにしている。夜間は居 室の温度・湿度を管理し、気持 ちよく眠れるように支援してい る。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	配薬マニュアルを整備し、意識 付けをすることで、誤薬がない ように努めている。症状のへん かについては、ケース記録に記 入し、職員間での共有や看護 師・ドクターへの報告が出来 るようにしている。薬の効能や 副作用について全員が理解し ているとはいえない。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。</p>	毎月、行事など行う事で、日 々の楽しみを持ってもらえるよ うに考えている。入居者の有 する能力を活かし、家事手伝 いや創作など役割を持ってい だしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。</p>	ご本人の希望を聞き、家族 の方の協力のもと外出が出来 るように支援している。個人 外出を企画し、ご本人の希 望に沿った外出が行えるよ うに努めている。コロナウ イルスの影響で外出行事を 制限している。	普段は利用者の希望に添 い、出掛けたい場所(墓参 りや行きつけの美容院等) を把握し支援に努めてい る。現在は外出を楽しむ 事が出来ないため、職員 は代替案を考えながら、 楽しめるよう取り組んで いる。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解してい る。一人ひとりの希望や力 に応じて、お金を所持し たり使えるように支援し ている。</p>	本人から要望があった場 合、スタッフが財布を持 って買い物をする事はあ る。入居者1人で使った り、所持したりしてはい ない。		

自己評価	外部評価	項 目(あかねユニット(1階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るように取り組んでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室の前、トイレなどには手作りの表札をかけた、季節感を感じられる様に壁紙作りを一緒になって飾りの創作などを行っている。</p>	<p>リビングは天井が高く実際の面積より広くゆったりとしている。テーブルには季節の花や壁には作品を飾っている。リビングは常に人の気配を感じられ、心地よく過ごせる様職員は支援している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話ができるように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、大切な写真やアルバムなどにより、その人にとって馴染みの空気作りを行っている。</p>	<p>2階の居室は明るい日差しが入り、使い慣れた家具等が持ち込まれ、その人に合った居室造りがされている。居室入口には名札が掛けてある。職員は一人ひとりの利用者が、居心地よく暮らせるようサポートしながら支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々それが出来ない事がある。残存機能についてカンファレンス等で話し合いケアプランに入れ活かしている。</p>		

V アウトカム項目(あかねユニット(1階)) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔と温もりの中でそして家族として・・・」という法人理念があり、ユニット目標、個人の目標を立て、実践につなげている。ユニット目標及び個人目標を3カ月に1回見直しを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルスの影響で地域の行事がなく参加できていない。美容院や散髪などは外出している。地域への情報の発信としてFacebookを活用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	包括支援センターの方々と協力して認知症アドバイザー養成講座を開催し認知症について理解してもらうように活動している。認知症サポーター養成講座を開催した。(小学校及び地域)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回開催し状況報告を行い、構成員の皆様から助言を頂くなど、サービス向上に努めている。コロナウイルスの影響で書面会議で開催した。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議で、身体拘束をしないケアについて、職員の意識統一を図っている。日々拘束は行わない事を職員全体が認識して身体拘束をしないケアにあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体会議にて、虐待についての勉強会を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在入居されている方に、成年被後見人の方がおられる。興味のある方がおられたら制度の説明などを行い利用してもらえるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に、見学をして頂き契約内容の説明を行い、不安や疑問点を聴き納得してもらい契約を行うように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	開設当初より家族会を発足している。家族会総会や・勉強会を通じて要望を聞き運営に活かしている。コロナウイルスの影響で家族会が開催できていない。年に1回アンケートを実施している。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開いており、また、週に1回ミーティングを行い意見交換をしている。日頃から気軽に話が出る様に、職員とコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年間目標、個人目標を決めて、各自が向上心を持って、やりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各個人の希望の研修に参加し全体会議にて研修報告を行っている。コロナウイルスの影響で研修に参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルスの影響で参加できていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	積極的にコミュニケーションをとり本人が困っている事、不安な事はしっかり聞き安心できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っている事、不安な事があれば話し合いを行い、問題点を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族と入居者が必要と思っている支援を尊重し、よりよい支援やサービス利用を含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に家事の手伝いをしていただき、役割を持っていただくなど暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が困っている事があれば話し合い一緒に解決していくよう心がけている。コロナウイルスの為、面会制限があるため十分に面会ができないが短時間の面会行事でのビデオレターの参加などをしていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。(現在友人知人が来られることはあまりない) コロナウイルスの為現在面会ができていない。		

自己評価	外部評価	項目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話ができるように職員が中に入り支援をしている。家事の手伝いや創作活動を一緒に行うなどでコミュニケーションをとっている。入居者同士のかかわりを深めることができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後、ご家族の経過をフォローしたり、相談、支援についてどのようにして良いのか分からないので、出来ていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族との話し合い行い対応している。職員同士では週に一回カンファレンス・月に1回ユニット会議で検討場を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞くなどして情報を集めている。本人と会話の中で生活歴やなじみを聞かせてもらい把握し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様のやりたい事や気持ちを大切に、ご家族からお聞きした趣味など大切に支援している。出来る所は時間をかけてやって頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	各担当がケアプランの見直しを行いスタッフと一緒に話し合いを行い介護計画を作成している。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	連絡ノートを作成し、何か変わったことや変更時には全職員が確認できるようにしている。週に一度カンファレンスを行い情報の共有に努めている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	ご本人やご家族様の要望にできる限り対応したサービスやケアを行えるように取り組んでいる。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	現在ボランティアの受け入れは行っていない。地域行事などに参加しているが、今年はコロナウイルスの為行事がすべて中止となっている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	隔週、協力医の往診がある。電話での連絡は24時間とれるようになっている。かかりつけ医より指示があった場合は総合病院など適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>もえぎ野内で看護師を確保し、日々バイタルCKなどを行い入居者の健康状態の把握に努めている。入居者の気付きや異常時などの場合は、看護師に報告し適切な対応、指示をもらう様に努めている。早期発見・早期治療に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、病院の看護師としっかり情報交換を行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。退院後も継続してかかりつけ医と連携して治療してもらえるようにしている。(コロナウイルスの為面会を行う職員を制限している)</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、家族の意向を考慮しながら家族と協力するようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時、事故発生時に備えての訓練は徐々に行っている。(AED使用法、救急蘇生法など)今年度はまだ研修を開催できていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えてある。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていないが、災害時における協定書を地域の町内会と結んでいる。防災訓練を予定していたが、コロナウイルスの影響で実施できていない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格を尊重し、その人に合った声かけを行っているが、職員によってはうまく言葉かけが出来ていない事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者によっては、希望を表したり自己決定を行ったりすることが難しい方もおられるが、思いに沿った働きかけを行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合で動いてしまうときもあるが、なるべく本人のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、身だしなみやおしゃれについて、希望があれば添うようにし、意思の疎通ができない方についても身だしなみに気をつけるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	コミュニケーションを取りながら、入居者と職員と一緒に食事を取り出来る人に調理補助や食器お盆拭きを手伝ってもらっている。入居者と一緒に食事をしていたが、コロナウイルスのため現在中止している。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の量は、2週に1回体重測定をおこない、管理している。盛り付けも、本人の状態を見ながら盛り付けている。(入居者によってご飯の量を決めている。)水分補給は定期的に行い、水分量が確保できるように努めている。(水分量も決めている。)栄養バランスを考え献立・食材のチェックや変更等を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行ってもらっている。また、歯科医・歯科衛生士に訪問してもらい、専門的な診療や口腔ケアを定期的に行ってもらい、口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1日を通し、トイレに行った時間、回数など記録し、把握している。定期的に声かけを行い、トイレで排泄ができるようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>起床時、食後などは便意の有無にかかわらず、トイレの声かけを行う。食物繊維のあるものを、食事に取り入れ、便秘時には、ドクターに相談して排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に週に2回以上入浴してもらっているが、体調、安全を考慮した上で、その人希望のタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらえるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	居室にはベッド、フロアにはソ ファなど休息出来る場所を作り、 好きな時にゆっくり休んでもら えるようにしている。夜間は居 室の温度・湿度を管理し、気持 ちよく眠れるように支援してい る。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	配薬マニュアルを整備し、意識 付けをすることで、誤薬がない ように努めている。症状のへん かについては、ケース記録に記 入し、職員間での共有や看護 師・ドクターへの報告が出来る ようにしている。すべての薬の 把握はできていないが重要な 薬については副作用などの説 明を行い情報共有している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	毎月、行事など行う事で、日 々の楽しみを持ってもらえるよ うに考えている。入居者の有す る能力を活かし、家事手伝いや 創作など役割を持っていたら いい。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。</p>	ご本人の希望を聞き、家族の 協力のもと外出出来るように 支援している。個人外出を企 画し、ご本人の希望に沿った 外出が行えるように努めてい る。コロナウイルスの影響で 外出行事を制限している。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。</p>	本人から要望があった場合、 スタッフが財布を持って買い 物をする事はあつた。入居者 1人で使ったり、所持したり してはいない。		

自己評価	外部評価	項 目(あおいユニット(2階))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るように取り組んでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室の前、トイレなどには手作りの表札をかけたたり、季節感を感じられる様に壁紙作りを一緒になって飾りの創作などを行っている。(居室担当が表札を作っている)</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話ができるように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、大切な写真やアルバムなどにより、その人にとって馴染みの空気作りを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々それが出来ていない事がある。残存機能についてカンファレンス等で話し合いケアプランに入れ活かしている。</p>		

V アウトカム項目(あおいユニット(2階)) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ野

作成日 令和3年12月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	県社協が実施している職員アンケートの結果にて、30代の主任・副主任のやりがいについての項目の評価が低かった。その後、対象となる職員に聞き取り調査を行った。結果、主任・副主任としての業務が曖昧で、役割分担も明確でなかった。	30代の主任・副主任が、やりがいを見いだせるような、体制づくり（役割分担）を行う。	主任・副主任の役割分担を見直し、週1回のリーダーミーティングにて、進捗状況の話し合いを行い、チーム一丸として進めて行く。また、ホーム長との評価面談を増やし、やりがいの構築を目指す。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。